

2022 年度(後期)海外渡航旅費助成金成果報告書

京都大学 大学院理学研究科
博士後期課程 2 年 岡田悠太郎

日本地震学会より海外渡航旅費を助成していただき、2022 年 12 月 12 日から 16 日にかけて米国イリノイ州シカゴで開催された AGU Fall Meeting 2022 に参加してまいりましたので、その成果についてご報告いたします。

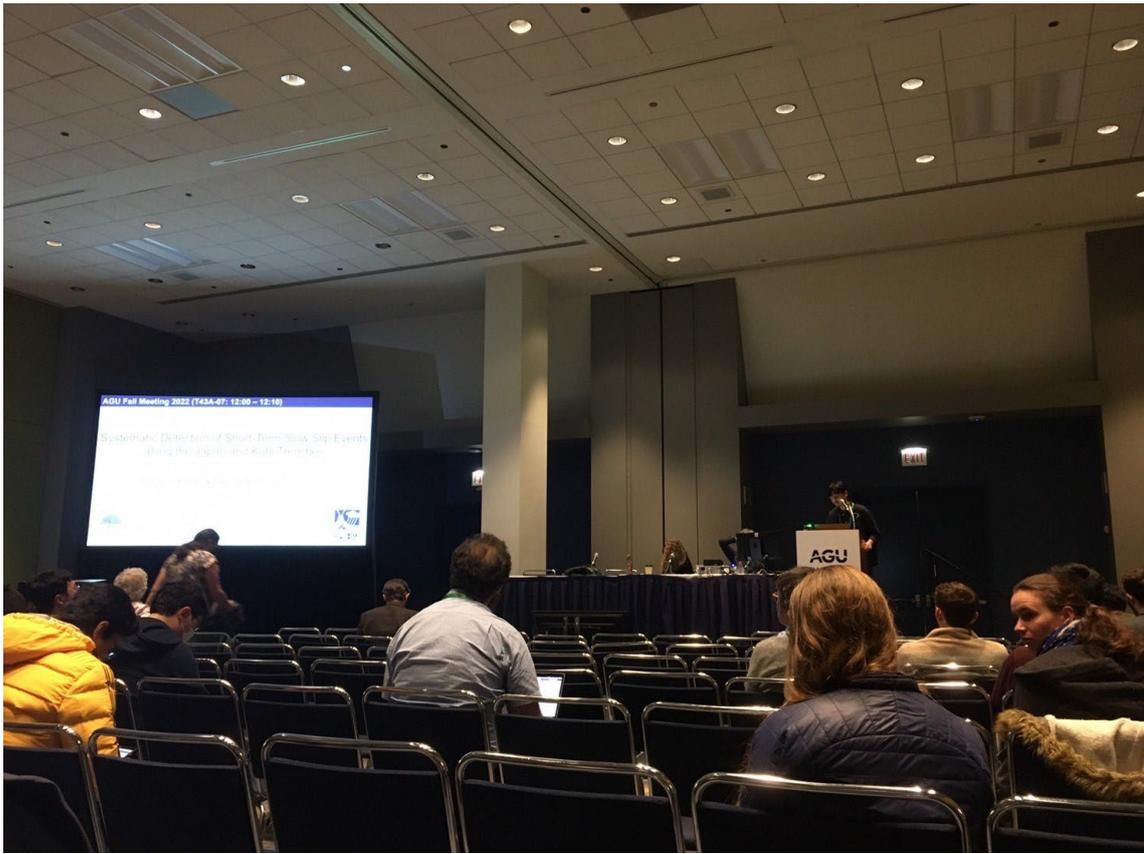
AGU Fall Meeting について、「12 月に開催される大規模な学会」という認識は学部生の頃から持っていたのですが、まさか自分が参加して発表するとは思っていませんでした。また 2020 年以降の新型コロナウイルスの世界的流行に伴う日本国内の学会への現地参加すら難しかった時期を越えての久しぶりの国際会議への現地参加だったので、わくわく半分、不安半分でシカゴ行きの飛行機に搭乗しました。

実際に現地参加してみて、「AGU Fall Meeting はやっぱりデカいな」というのが私の抱いた感想です。セッションの数、会場の広さ、初日の参加証受け取りの列、全てが想像を超えた大規模なスケールでした。また GNSS データに記録された陸水荷重変動シグナルの解析など日本ではなかなか取り扱われないテーマに関する発表も数多くあり、新鮮に感じたと同時にとても勉強になりました。

私は大会 4 日目の午前のセッションで「Systematic Detection of Short-Term Slow Slip Events along the Japan and Kuril Trenches」というタイトルで口頭発表を行いました。この研究では千葉県東方沖から北海道の根室沖までの広い領域を対象に同一基準の下でのスロースリップ検出を行いました。その結果、この領域でのスロースリップの空間分布を明らかにしたと同時に、北海道十勝沖などで新たにスロースリップを発見しました。発表時間の短さや慣れない英語で発表ということもあり、かなり緊張して発表に臨みました(発表中も声が震えていたと思います)。残念ながら講演中には質問が生まれませんでしたが、セッションの終了後に発表内容に興味を持っていただいた方から声をかけていただけて、一緒に議論できたことがとても嬉しかったです。また自分が興味を持っているスロースリップや米国アラスカ州における地殻変動に関するポスター発表にお邪魔して、発表者の方と英語で議論できたことも良い経験になりました。

今回のシカゴ滞在は私にとって人生二度目の海外渡航、かつ初めての米国滞在だったので、学会期間中の生活についても不安があったのですが、思いのほかシカゴでの生活を楽しむことができました。幸いにも時差ボケがほとんどなく、食事面も特に困ることがありませんでした。これは自分でもほんとに意外で、やっぱり何事も体験してみないとわからないものだなと思いました。

最後になりますが、今回の AGU Fall Meeting 2022 参加をご支援いただいた日本地震学会及び関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



発表の様子. 演台にいるのが岡田.